脊椎麻酔 を受ける 患者さんへ





麻酔科

脊椎麻酔の概要

脊椎麻酔って?

- ●一般的に「下半身麻酔」と呼ばれている ものです。
- ●背中からくも膜下腔に薬を入れます。
- 胸から下の痛みや感覚を取り、運動神経をブロックするため、しばらく足を動かすことができません。



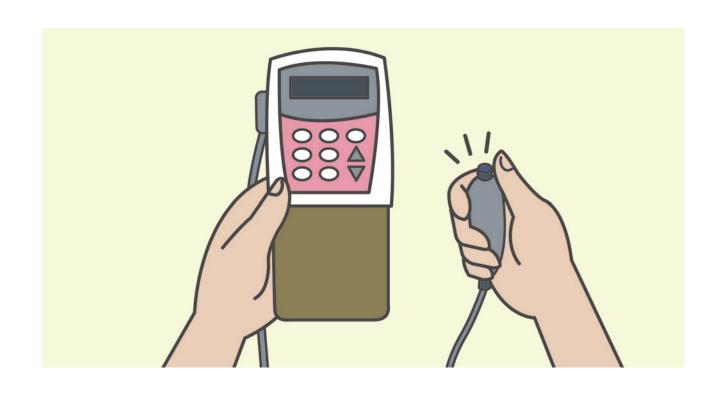
手術中の意識

●当院では"静脈麻酔"を併用することが多く、ほとんどの場合、術中の意識はありません。(患者さんによっては、手術が終わり目覚めた後で『今から手術なの?』とおっしゃる方もいらっしゃいます。)



点滴の痛み止め

- ●6~7時間で麻酔の効果はなくなり、足の動きと共に痛みも出てくることがあります。痛い時は痛み止め(点滴)をお使いいただきます。
- 痛み止めの中には、患者さんご自身でボタンを押して点滴の痛み止めを追加できるものもあります。



合併症について

脊椎麻酔後頭痛

- ●術後、頭をあげた時に頭痛を感じることがあり、特に若い方や女性に多くみられます。
- 安静と痛み止めで良くなることがほとんどですが、まれに追加の治療が必要になることもあります。



誤嚥性肺炎

- ●麻酔をかけるとき、胃の中に食べ物が残っていると、食べ物が口まで逆流して、肺に入り、誤嚥性肺炎を引き起こすことがあります。これを防ぐために、一定の絶飲食時間を設けています。
- ●手術前は絶飲食でお願いします。



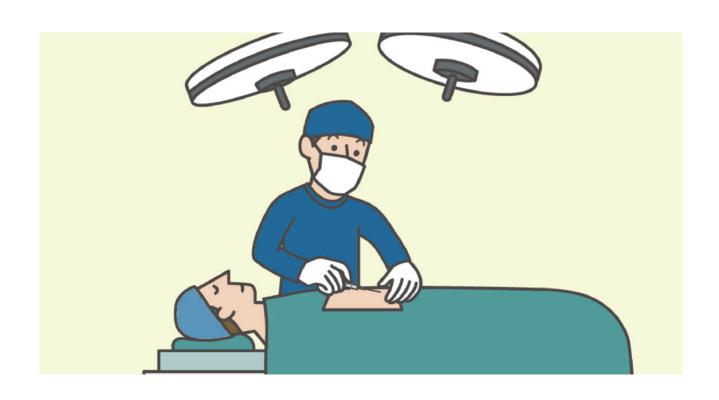
神経障害

- 手術中にずっと同じ体勢をとるため、手 足がしびれてしまうことがあります。
- 数カ月持続することもありますが、頻度はとても少ないです。



硬膜外膿瘍•血腫

- ●針を刺したところの出血や膿が原因で、 麻痺が出てくることがあります。緊急手術 で血腫や膿を取り除く必要があります。
- ■10~15万人に1人の頻度で起こるといわれています。



アレルギー

- 手術や麻酔に使用するさまざまな薬で、 アレルギー反応を起こしてしまうことが あります。
- ●予測不可能なことです。発症した時は適切な治療を行います。



さいごに

お渡しした麻酔の説明書を、よくお読みください。 分かりにくい点がございましたら、 担当医や麻酔科医に 遠慮なくお尋ねください。

